

# この人に聞く 高橋武昌さん 小さな美術館・季(とき)を たちあげて



## 略歴

1941年(昭和16年) 新潟県湯沢町(当時湯沢村)生まれ  
 1960年(昭和35年) 新潟大学教育学部入学  
 1964年(昭和39年) 卒業・新潟市の教員となる  
 1985年(昭和60年) 新潟市教組書記長になる  
 1991年(平成3年) 新潟県民間教育研究協議会会長  
 1999年(平成11年) 新潟市教組執行委員長になる  
 2000年(平成12年) 小さな美術館季(とき)開設  
 福祉法人松葉保育園理事長になる  
 2002年(平成14年) 新潟市の教員退職 現在に至る  
 2011年(平成23年) 新潟民商会長・新商連副会長となる

## 編 集 部

1 高橋さんのご出身、また子ども頃の思い出についてお話ししてください。

越後湯沢に昭和16年に生まれました。親や兄達(2人)は、いま話題の東京電力の社員でした。戦争の記憶は、隣が湯沢発電所でしたから、アメリカ軍の飛行機から遮蔽する網が水路管や発電所にかけていたことを覚えています。なによりも、食べ物がなく大変でした。昭和20年10月19日は秋晴れの澄んだ日でした。食べ物探しにお昼ごろ、私と二歳の妹は兄におんぶされ、近所の神主の子と四人で、魚野川原に秋グミの実をとりにいくことを決行しました。上越線の線路を歩いていくのが近道です。湯ノ沢鉄橋の真ん中まで進むと突然巨大な鉄の塊のような機関車が私たち4人の前に出現しました。逃げ惑う蟻たち、兄は妹をおんぶしたまま河原に転落、神主の子は素早く避難所の台へ避難、私は逃げられず線路の真ん中にびたつと伏せました。お昼の長岡発、湯沢行きのお客を乗せた汽車は急停止し、私は機関車の真ん中あたりから引つ張り出されたそうです。河原は一面血になり妹は30分後死亡、兄は頭蓋骨折でしたが助かりました。女学校

を卒業したてで六日町小学校に勤めていた姉がこの汽車に乗っていて弟妹の重大件を車窓から目撃しました。妹は、生まれつきの肢体不自由の子で食べ物をお口に運んでやると嬉しそうにしていたかわいい子でした。戦争・困窮と秋グミは忘れられません。

占領軍アメリカの教育使節団のメイヤー女史が湯沢小学校にきました。1年生の私は日の丸を持つている人物を書くのが得意らしく、その絵がメイヤーの目に留まり父と校長が呼び出されたと後できました。湯沢発電所の周辺で銅がね拾いをして小遣い稼ぎした頃が朝鮮戦争前夜だったと思います。

## 2、高橋さんが教師になられた理由はなんですか

小・中学校時代の思い出は、やはり学校や教師との関係が多いようです。

湯沢の私たちの町内の近くに湯沢小中学校の教員住宅があり、当村では最もアカデミックで文化の香りが漂う魅力ある場所だったようです。村の議員やPTA会長の父の言いつけで教員住宅に食糧を運んだり父は教員住宅にいろいろな話でいつていたようです。したがって村の子ども達は、教員住宅の先生の個室によく遊び

にいつていました。子ども達は担任の先生の部屋ばかりでなく星の好きな子はK先生、スポーツの好きな子はM先生、なんだかわかんないけど行くと文学の話や作文の話をしてくれる先生がいたり、何人かが集まっている部屋の先生・・・のところに共同風呂を上げる」と訪問するのです。

U先生は、早稲田の英文科をでた方で文学のはなしをいつもしてくれました。先生が話してくれる文学の話は、砂漠で水を求めるように私の体に吸い込まれていきました。芥川龍之介の「みかん」や「トロツコ」、タカクラテルの「箱根用水」や「大原幽学」、尾崎一雄の「虫のいろいろ」、小林多喜二の「蟹工船」、近藤芳美の反戦の短歌・・・と12、13歳の少年には全く知らない世界の扉を開いてくれた話でした。教師になりたいたいと思っただけは勿論ですが、なにかこれから生きていく大きな課題みたいなのを自分の中に抱いている時代でした。また、昭和29、31年ころの教師たちの自由で前向きな雰囲気子ども達は教室でも感じていました。K先生の英語の授業はちよつと緊張しましたが当時、魚沼教師の会・民間教育研究団体に所属されていたと思うのです。その研究会に参加した後、私たちに

ガリ版刷りの楽譜が配られ英語の授業の前段に歌ったのです。「このころのうた」「トロイカ」「ともしび」と。みんなしびれたんです。何回も何回も涙が出るようなときがあつて先生たちには絶対信頼でした。田舎の何も分からない子ども達を学校演劇で私たちをぐんぐん引つ張つてくれたり、ちよつとまじめなこと言う私を生徒会の新聞責任者にしてくれて、「高橋のいう方言のこと大事だよ」と褒めて、エスペランド語ということとを熟っぽく語りました。そして、宮沢賢治が私の人生に登場してくるのです。

家庭の都台で姉兄が新潟で教師をしていることもあつて新潟大学に行くことになりました。新潟の教師が目標でした。

3、教師になられて教育の現場をどのように見ていましたか。また、その経験の一部を教えてください。

学生の中から全生研の「生活指導」、日本作文の会の「作文教育」は読んでいました。兄弟や同級生はみな学閥で頑張っていました。私もいずれ新潟県の教育をひっぱつていく存在だと不遜にも思っていました。

23歳の時には文部省主催の全特活研究集会の報告者に

もなり校長に引つ張りまわされました。でも、何か孤独でした。子どもやその親や地域がイメージできず官製の研究や教育に不満が残りました。

24歳で結婚し今の大江山の空き家に居住することを切つ掛けに「子どもが本当に喜ぶことつてなんだらう」と私たちは考えました。子どもが本好きになつたり生きる喜びを体で感じてほしい、と本気に思つたのですね。松山宇宙文庫を開設しました。私と妻の手持ちの児童文学書を地域に開放し、毎週定例日に読書会をして、読みきかせ、友達づくりのゲーム、苦手な子のための英語教室、生産活動として畑づくりで収穫したものを換金し活動にあてたりで楽しい地域活動に入つていきました。このころ付き合つた子ども達がいま、集落の中心の指導者になつています。その後の亀田おやこ劇場運動、地域の保育園設立運動、地域のPTA活動も親の勝手をやつたというより自分の3人の子どもが住みやすい地域、安心の居場所、いつも優れたものを求める文化的環境にいてほしいという親の願いに突き動かされてきたことでやつてきました。子ども達はいま私たちをどう評価しているかは定かではありませんが私たちが夫婦もそういうかかわりの中で、いろんな

方がたと出会い助けられ励ましあつてきた喜びは子ども達によつて与えられました。

学校現場で、適当にうまく協調して自分の成果を固めていくような生き方が出来ませんでした。新卒の頃から定年まで続けた学級通信・学年通信活動は教室外へ知れることですので管理職の目にとまり対立を起しました。

県教組の大会で発言した次の日には学級通信で「主任手当では拠出して子どもの奨学金になります」と書けば、管理職は複数で私を校長室に呼び「君の書いたことは県教育委員会も問題にしている」と脅します。

管理職も何人も替わりましたがこういうことが何回もありました。私を呼びつけて詰問するたびに「私の通信のいつの何がどう問題なのか、教えてくれ」と迫りました。すると、必ず「高橋さん今度、一緒に飲もう、そう硬いこといわないで」と懐柔するのです。私が「小学校PTA総会での講演を頼まれたときのことです。管理職は、私に相談なく「高橋はその日には、お話にいけません」と断ったのです。若い私は怒りをもって通信にこの事実を書きました。

また、校長室に呼ばれたので「分かりました、あな

たが言うようにもう明日から学級通信を書きません、そのかわり、なぜ私が今回で通信をやめるかを最後に出しますがそれでいいですね」と私は全く聞き直りませんでした。管理職は「高橋さん、いまのほないことにしてくれ。どうぞ、つづけて結構です」と譲歩しました。I小学校PTA総会は、大成功したのです。しかし、その後の朝、教務室へ行くといつもの謄写版印刷機がなくなっています。3日も通信が出せないのです。教務主任の命令で事務が校務員といっしょに隠したことを事務が私にそつと言うのです。この闘いはまだ続くのですがこのくらいにします。

私は、組合のことも地域との連携も認めない、ましては、人権をも省みない教育現場について反省と強い意志を自身で感じました。1974年の「教師聖職論」にがーんと殴られたおもいでした。また、未熟の私は宮沢賢治の「世界全体が幸福にならなくて、個人の幸福はありえない」ともつながりました。「管理職といっしょに子どもの幸せの学校をつくるんだ、そのためには管理職の信頼も得て学校を変えていこう」と、15年在職したM小学校では生徒主任に34歳でなり、地域の育成協でつくった「子育て宣言」を学校に持ち込みま

した。そして、全校風揚げ遠足で職員の間結を勝ち得ました。

私を支えてくれたのは、困難な職場だったけどたった一人の心通じる職員といつも耐えている女教師たちでした。その軸は「子どもをどう見るか」という発達の教育的教育観でした。それをいつも追求させてくれたのは新潟県民間教育運動でありその仲間達でした。

4、その後は組合活動にも精をだされましたがそこで感じたことを教えてください。

新潟市教組の活動と役員として、たくさんの方を学びました。市教組は伝統ある組合で組合員の味方でした。県内の教員や父母からも頼りにされましたね。私が書記長るとき「ヒロナガ・アピール」で新潟市の過半数署名達成へ貢献しました。大型間接税導入反対でも地域に出ました。学校事務職員2人制をその当時14校広げました。そのために当時、市議の渋谷明治さんといっしょに県教育委員会へ要望したこともありました。いまは「平和な日本を！戦争法廃止」で教師が地域へ出て行くときです。

また、新潟市教組は先生方の権利擁護に市教委から

成果を得ていました。教師は自分の権利を守るだけでは不十分で、教育条件を整えたり、豊かな子どもが育つ環境づくり、子どもが生き生きとする学校づくりに力をもっと出していくべきです。児童生徒減で学校の統廃合も進んでいます。小規模学級を要求し実現するチャンスです。

また、18歳選挙権がことしから実施されます。感じることは「教師」は親や地域と語り合うことが最も大事です。例えば、若者の労働の仕方について親の考えをもっと聞くといいでしょう。剰余時間をどれだけ奪われているか、民主主義とはなにか、子どもから老人までの閉じこもりと当事者の声、学校で教えるべきセーフティネット、悲鳴をあげられない子どもと自己責任の地域・職場・というように、かっつての教育懇談会でもいいが、親と子らにより添えられれば可能なことです。組合に関っている教師であれば、組合の中に親や地域と懇談する方針をとってもらうことです。

細かい教育現場のことは分かりませんのでよく言えません。しかし、教育ですから教師の生活、考え方、主張、行動の仕方が子どもにじかに影響します。今ほど、教師の立ち位置が求められているときは無いよう

に思います。はつきりいえば労働者である教師が自身の立場・階級を明確にする活動は、かならず方向性を持つてくるし、なぜ学ぶかがイメージしやすくなりま  
す。このことは民間教育運動が指し示した「子どもを  
どう見るか」を突き止めようと努力する過程でどうし  
ても大切にされることでしたね。

##### 5、美術館活動と民商運動についてお聞かせください。

平成12年（2000年）に小さな美術館季はオーブ  
ンしました。新潟県内、県外作家の美術作品を月2企  
画で展示します。運営経費は入館料、作者の作品販売  
の手数料などです。昨年は15周年記念事業で、記念誌  
をつくりました。その経費のうち、30万円を小規模持  
続化事業補助金として中小企業庁から貰いました。な  
ぜ小さな美術館か、ということですが誰でも新潟県立  
市立美術館にいけません。とくに生活に余裕がない中、  
美術と縁のない人生では困ります。また、アマチュア  
を含め美術家はたくさんいます。絵であればそれに込  
められた思いが様々な手法を駆使して表現されます。  
自分が生み出した子どもみたいなものです。それを多  
くの人に観てもらい、時には買い求めてもらい他人に

子どもを託します。

託された子ども（作品）は、観る人を励ましたり、  
時には、暗示も与えます。作者の作品制作への努力は、  
優れた人間性として観る人に伝わることもあります。  
それはこういう時感じます。たとえば、絵を観て「こ  
の絵、癒される」「きれいだ」とかいいう方は多いので  
すが「この絵を観ていると励まされる」「何か元気が  
出てくる」「私はこの絵のそばで安心していられる」  
ということばは、色の綺麗さや構図の見事さではなく  
れない作者の内面性に触れるようなことを言っている  
ようです。

そんな作者と鑑賞者との橋渡しになるような企画を  
300企画をやってきました。年平均7000人はお  
いでのになります。陶芸の息子が4年前加わりましたの  
で、年齢層の低い方がたも増えています。付加価値で  
はないですが、作者の語る会、企画にふさわしいコン  
サート、歌声喫茶「いろり」、宮沢賢治を読む会、季  
二胡の会、大江山縄文の会を折々やっています。

さて、季（とき）は営業として自立しないと続きま  
せん。営業力をつけるため学習したり、なかまではげ  
ましあつていくのが民商運動です。

妻が陶芸で新潟民商に30年前から厄介になり、私が16年前から加わりました。民商会員は、業者です。業者階級ともいうべきで歴代の政府から収奪を余儀なくされ苦しめられてきましたが、要求で団結し他の業種・国民と連帯し、業者のみならず、国民の幸せを実現する遠大な理念をもって闘ってきました。

業者の税金についての要求は多様で深刻なものが目立ちます。長期の不況で仕事をしても単価が安かったり、大資本・大店舗の進出で小業者は商売が成り立たず大減収状態が続いています。国税（所得税・消費税）地方税の支払いがとどこおるのは常態化しています。所得が200万円前後の家族の例で、国民保険料や市民税や労災保険料などの滞納者が増え、生活保護世帯より低い生活を強いられています。大よそ50万円の滞納になると滞納処理のため財産差し押さえが勧告され、応じないとサラ金並みの利子が増算されていきます。

こうなると民商あげて市・県・税務署と交渉をします。教育でいう子どもの非行や自立困難は、上のような業者の経済状態の上にあることが容易に想像できます。新潟民商で昨年、生活困窮や病気で自死された方が7名もいました。また、自己責任という思想攻撃は全く

弱い社会・経済層に容赦なく襲います。悲鳴さえあげることに出来ない業者が増えています。民商のチラシ・民商事務局の携帯電話番号をしつかり確認している困窮層がいます。どうにもならない時、局員への電話は最後の命の電話ともなるのです。新潟民商は、自身の税金の申告書をつくるための班会を2〜3月に121箇所で開催しました。お互いに助け合い、今の政治経済情勢を話し合い戦費徴達ともいうべき消費税負担を無くし戦争法を何が何でもストップさせるためには来る参院選に勝つことが必要と各班会で確認しています。教育で体験し学んできたことは、業者の社会的自立、経済的自立、何よりも政治的自立のために役立たない日はありません。全く過去の日々に感謝しています。時間がなくなりましたのでお話しはこれくらいに致します。

#### 著書

「教師でよかった」（あずみの出版） 1989年

「地域が教育の土壌をつくる」（農文協） 1990年

新潟市大江山地区の実践

「子どもと教師が輝く日」（細川出版） 2002年

その他、共著あり